

令和6年度 西米良村立西米良中学校 自己評価書及び学校関係者評価書

学校の教育目標		自ら考え、人とつながり、人を大切にする生徒の育成	学校経営ビジョン	菊池の教えを基盤に、保護者や地域の方々との連携・協働の下、知育・德育・体育の充実とその調和を図ることにより、「自ら考え、人とつながり、人を大切にする生徒」を育成する。				
		【 4段階評価 A:期待以上 B:ほぼ期待通り C:やや期待を下回る D:改善を要する】						
評価項目	重点目標	方策・手立て	自己評価		学校関係者評価		改善策等	
			評価	成果と課題	評価	意見		
1 確とか 向な上 学力の 定着	(1) ICTを有効活用した授業改善	個別最適な学びと協働的な学びを充実させる。 (学校と家庭の学びをつなぐコネクト学習を基盤とした複線型の授業の充実)	B	○小中合同研修会や研究公開を通じ、授業改善、授業力向上を図ることができた。県内でも先行して「複線型」に取り組み、さらなる授業の充実を図ることができた。 ●様々なタブレットツールやコンテンツ、アプリの効果的な使い方を整理する必要がある。 ○生徒が学習に集中しやすい、掲示や板書などの工夫を行った。 ●タブレット活用に伴って、教科によっては板書等をしなくなりがちであり、資料の提示や板書計画などの工夫・改善が必要になっている。 ○各種テストの前に対策問題等に取り組ませるなどの手立ては講じることができた。 ●主題研究等で、各種テスト、アンケートの分析、考察を行い、授業改善に努めていく必要がある。	B	○漢字や文章が書けなくなっている。すべてがタブレットではなく、文字を書くことも大事ではないか。文字にして、自分の言葉で表現させるような指導をお願いしたい。 ○全国学力、みやざき学調、実力テストの結果を見ると、学習成績の違いがよくわかる。学習成績、点数がすべてではないが、今後も学力向上を目指していただきたい。 ○学力向上のために、家庭学習の在り方や改善を今後も図っていただきたい。	○小中合同研究会・校内研究の中で、効果的な使い方を整理する。  ○ICT活用とのすみわけをしっかり行いながら、資料提示や板書を効果的に生かす工夫をする。  ○全国学力テスト・みやざき学習状況調査の分析・考察をもとに授業改善を図っていく。	
	(2) 分かりやすい授業の充実	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを推進する。						
	(3) 指導と評価の一体化による学びの定着	各種テストの結果やアンケート結果を指導に反映させ、確実な学びの定着を図る。						
2 豊かな心の醸成	(1) 望ましいコミュニケーション能力の育成	社会性の育成と多様な人間関係や異集団に対応できる望ましいコミュニケーション能力を育成する。	B	○村応援Pや学校行事などを通じて、異年齢集団や地域の人と関わりながら望ましい人間関係やコミュニケーション能力を育成することができた。 ●少人数であるため、学校内での人間関係の構築や望ましいコミュニケーションの取り方が今後も課題である。 ○様々な体験活動や学校行事を通しながら、社会性を身につけ、自己の在り方を考え、行動する態度を育成できた。 ●体験活動のみに終わってしまい、問題解決的かつ探究的な活動にまで発展していない。 ○学校生活アンケートや教育相談を定期的に実施し、生徒一人ひとりと向き合いながら、いじめやトラブルの未然防止に努めた。 ●一部の生徒のみに焦点を当てるのではなく学校全体として取りポジティブな行動支援に取り組んでいいかないと想い。	A	○学年が上がるにつれて、コミュニケーション能力も上がってきていると思う。今後も、様々な活動や行事等を通して、自信をもって自分の考えや意見を言える生徒を育成していただきたい。 ○スクールワイドPBSなど、一人一人の良さ、個性を認め合える学校づくりをお願いしたい。 ○アンケートで「学校が楽しくない」と回答している生徒が気になる。今後も、積極的な生徒指導と学校が楽しいと思えるような指導をお願いしたい。	○道徳教育や人権教育の充実を図っていく。  ○総合的な学習の時間の見直しを図り、積極的に探究活動を取り入れていく。  ○スクールワイドPBSを積極的に実践していく。 ○教育相談等での、生徒の状況把握を継続して実施していく。	
	(2) 達成感や自己肯定感（自己有用感）、社会性、協調性の向上	体験活動や行事等を通して、自己肯定感や社会性の醸成と根気強く問題解決に臨む態度を育成する。						
	(3) いじめや不登校の未然防止と的確な初期対応	生徒指導の三機能を生かした積極的な生徒指導によるいじめや不登校の未然防止と的確な初期対応に努める。						
3 体力安 全健 康理の 増進底 進底	(1) 望ましい生活習慣や運動習慣の定着	食事や運動、睡眠等をバランスよく配分した生活の重要性を理解させ、自立に向けた生活力の育成を図る。	B	○保健だよりや給食だより、各集会などを通じて規則正しい生活やバランスの良い食事などについての指導を行うことができた。 ●睡眠時間に関しては、スマホやゲーム、動画の使用時間の増加に伴って、睡眠時間が少なくなっている生徒もいる。 ○栄養教諭、養護教諭が中心となり家庭科の授業、給食時間などを通じて、バランスの良い食事や勉強や運動のパフォーマンスを向上させるような栄養指導ができた。 ●食事のマナーの徹底や家庭での食生活を振り返らせる機会がなかった。 ○避難訓練や防災教育のみならず8月の日向灘地震、台風10号被害などを通じて、防災対策や意識向上を図ることができた。 ●学校施設、設備の老朽化もあり、より一層の安全管理や修繕が必要と感じる。	B	○睡眠時間とメディアの使用時間の関連性が気になる。家庭による意識の差が大きいかもしれないが、学校での指導や家庭での啓発等にも力を入れていただきたい。 ○情報モラルについては、学校と家庭が協力し合って、子供たちの進学後を見据えた指導体制を構築する必要がある。	○メディア使用時間や睡眠時間等のアンケートを定期的に行い、実態把握と注意喚起を行う。  ○給食時間や給食だよりなど、視覚的に意識させる工夫を続ける。  ○毎月の安全点検を確実に行い、危険箇所は修繕を行う。	
	(2) 食育の充実	食育を通した適切な健康管理力を育成する。						
	(3) 安全教育の充実	安心・安全な学校づくりに努める。 (安全意識の向上・設備の安全点検・安全管理の徹底)						
4 地学 域校 とづ とく もり にあ る	(1) 連携と協働による開かれた教育活動の推進	連携と協働による地域学校協働活動を推進し、学校の教育活動を通して、積極的に地域への貢献を図る。	A	○村応援Pや地域学習を通して、村の良さや資源活用などを地域人材を活用した学習に取り組むことができた。 ●今後は地域貢献や地域発展に貢献できるような探究的な総合的な学習の時間に取り組む必要がある。 ○マチコミメールや学校HPを有効に活用し、生徒の活躍や様子を積極的に発信した。また、新聞投稿やニュース、テレビ番組などで学校の良さをアピールする機会が増えた。 ●新聞投稿については、様々な活動に関する感想等を積極的に投稿していただきたい。 ○定期的なコンプライアンスチェック・コンプライアンス研修を実施し、教職員の不祥事防止だけではなく、職場の風通しを良くする話しやすい雰囲気づくりに努めた。 ●本校、本村の実態に合うコンプライアンスチェックや研修の実施を検討したい。	A	○今年は、テレビ、新聞に西米良中、西米良村が取り上げられた。県内外に西米良をアピールできた。 ○今後も、生徒の様子や学校からの連絡事項など、マチコミメール等を活用していただきたい。 ○風通しの良い職場は大切。今後も、より良い職場環境づくりを継続させていただきたい。	○総合的な学習の時間の見直しを図り、宮崎大学と連携した、探究的な活動を取り入れていく。  ○次年度も、積極的に学校行事や生徒の様子をホームページ、マチコミ、メディアに投稿していく。  ○定期的なコンプライアンスチェックを継続し日々、様々な情報を共有し合うようにする。	
	(2) 学校便りやホームページによる情報発信	学校便りやホームページを活用して、積極的に情報発信を行うとともに、学校生活の様子を具体的に伝えて情報を共有し、改善に役立てる。						
	(3) コンプライアンス意識の徹底	教育公務員・西米良村民としての自覚をもち、コンプライアンスの徹底を図り、地域の学校としての村民の期待に応えることに努める。						
次年度の方向性についての校長所見		○地域の特色や実態を踏まえ、関係機関と連携しながら、地域とともに生きていく力の育成に努める。(ふるさと西米良学の再考) ○知、徳、体をバランスよく身に付けさせるために「生徒を中心とした効果的な授業」「相手を意識したコミュニケーション力」「体のための食育」をキーワードとして学校教育に努める。						